



UNESCOユースフォーラム特集号

主催 ユネスコ 共催 五井平和財団 於 パリ・ユネスコ本部



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

In support of

YÖUTH

7TH UNESCO YOUTH FORUM
Youth voice for change



Goi Peace
Foundation



はじめに

五井平和財団は、1999年に設立され、2000年よりユネスコと協力して様々な活動を行ってきました。2006年には日本で初めて「ユネスコとの公式関係を持つ財団」の認定をいただきました。今般ユネスコからの依頼を受けて、ユネスコ本部で開催された第7回ユネスコ・ユースフォーラムにメインパートナーの一つとして、プログラムを提供するなどの共催を致しました。お陰様でユネスコからも高い評価を得られ、世界平和達成のために大きな貢献ができたと自負しております。

これは、今までのユネスコとの協力関係の10年の一つの集大成でもあり、またこれからユネスコと協力して新しいプロジェクトを展開していく上での節目でもあります。

そこでこの機会に、今回のユネスコユースフォーラムのご報告と共に、今までの財団とユネスコとの協働実績をまとめてご紹介する目的で小誌を発行することに致しました。

財団は『生命憲章』を基軸として「新しい文明を築く」イニシアティブを提案し、平和の文化創造のための叢智の結集とネットワークづくりを進めて参りました。そしてその大きな方向性の下に平和啓発・教育事業を進め、青少年のための教育プログラムとしては、国際ユース作文コンテスト、地球っ子広場、外交官プロジェクト、大使リレー講座などを展開して参りました。

「平和の文化創造のための2000年祭」を開催した当初に、ユネスコの後援を受けたことを皮切りとして、ユネスコとは教育・科学・文化と活動領域が共通する関係で、毎年のように様々な形で協力関係を続けて参りました。ユネスコとの連携は、財団が推進してきた大きな方向性を実現していく上でとても重要であり、財団の叢智の結集とネットワーク作りの一環でもあります。

(※具体的な連携内容は後述をごらんください)

この小誌の発行に当たり、今後世界的にあらゆる仕組みの激動的な変化が予想される中、私たち五井平和財団としては、ユネスコとの協力関係を更に深め、世界平和の実現に向けて大きく取り組んで参りたいと思います。

五井平和財団の活動に対する皆様のより一層のあたたかいご理解とご支援を賜わることができましたら、幸甚でございます。

公益財団法人 五井平和財団

会長
西園寺 昌美

理事長
西園寺 裕夫



目次



パリ・ユネスコ本部

平和の創造

C R E A T I N G P E A C E

ユネスコ・フォーラム記念特集号

- 02 第7回ユネスコ・ユースフォーラム 大会まとめ・財団の参加趣旨
- 04 - 10 五井平和財団提供カルチャーイベント
- 11 - 12 カルチャーイベントの感想
- 13 - 15 閉会式 ～フラッグセレモニー・ピースポール贈呈式～
- 16 五井平和財団の教育事業一覧
- 17 - 21 財団とユネスコとのパートナーシップ
- 22 - 23 ユネスコを理解しよう！
- 24 入会案内・寄付案内／『生命憲章』

第7回 ユネスコ・ユースフォーラムへの協力！

大会趣旨

2011年10月17－20日の4日間、世界127カ国の国々を代表する若者がパリのユネスコ本部に集い、ユネスコ総会に提出する最終提言書（ファイナルレポート）をまとめる世界大会として、第7回 ユネスコ・ユースフォーラムが開催されました。

テーマは「いかに若者が変化を推進するか」（How Youth Drive Change）。

大会開催に際し、五井平和財団は、ユネスコ・ユースセクションの要請を受け、ユネスコの主要パートナーとしてフォーラムに参加し、プログラム制作に協力しました。

五井平和財団は、フォーラムの公式プログラムの一部として10月19日の夜の部で2時間半のカルチャーイベントを主催したほか、最終日の20日にもクロージングセレモニーを企画提供しました。会期中催されたユースエキスポでは、財団インフォメーションブースを設置し、連日多くの参加者と交流して、平和の創造に関する情報を発信しました。また、開発途上国や経済的に恵まれない立場にある若者の参加を援助するパートナーの役目も果たしました。

ユネスコ・ユースフォーラム開催趣旨（ユネスコ・ユースフォーラムのウェブサイトから抜粋訳）



イリナ・ボコバ事務局長のスピーチ

今日若者たちは各国の「いまと未来」を形作るために声を挙げ始めています。これを受けて本大会では、学生の社会参加、若者の雇用、紛争と持続可能な開発などについて話し合われました。

図 ユネスコ・ユースフォーラムの位置づけ

ユネスコの若者へのアクション：若者に関する政策の開発に若者を巻き込む活動（常時）

ユネスコ・ユースフォーラム：ユネスコ総会の重要な一部としてユネスコ総会に提出する最終提言書を若者の手で作成（2年置きに開催）

ユネスコ総会：ユネスコの最高決議機関 2年置きに加盟国代表（2011年現在195カ国）が集まる

本大会には、各国の若者代表のほか、市民社会の活動家、若手社会起業家、国連機関、国際組織、学会、民間セクター、社会的に弱い立場に置かれている人びとの代表、ユース団体、若手ジャーナリスト、ブロガー（ブログ作者）などが参加して活発に議論を重ねました。また同時にTwitter（ツイッター）やfacebook（フェイスブック）でも活発な意見交換が行われました。



財団の参加趣旨



五井平和財団は、「生命憲章」の理念原則や「新しい文明を築く」イニシアティブの方向性に基づく、様々な教育事業を進めてまいりましたが、これらの事業は、ユネスコの理念とも極めて近いものであり、その中にはユネスコとの協働事業もいくつか含まれております。

これらの実績が評価され、2006年には財団が日本で初めて、「ユネスコとの公式関係を持つ財団」としての認定を受け、その関係はより近いものになって参りました。

そのような中、ユネスコよりユースフォーラムへの共催の依頼を受けました。

加盟国の若者の代表が集い、社会変革のために若者として出来ることを話し合うというユースフォーラムの趣旨が、財団にとっても大変意義深いものであり、参加することにいたしました。

今回初めて、ユネスコと準備段階から当日の運営に至るまで、実務面でも共同作業をすることにより、お互いの理解と信頼が深まり、今後より緊密な連携を進めていく上からも、貴重な機会でありました。

またユネスコ総会の一環であるユースフォーラムに、日本のNGOとして貢献することにより、国際社会における日本の存在感を、発揮することが出来ました。

ユネスコ事務局の代表挨拶



ピラール・アルバレス・ラソ ユネスコ事務局長補佐

五井平和財団のユネスコ・ユースフォーラムに対する多大なるご協力、そして平素からの平和の推進へのご尽力に深く感謝申し上げます。

ユネスコと五井平和財団は協働して、ユネスコ憲章と『生命憲章』にありますように、平和の実現のために人々の心の中に平和を築く努力をし続けています。

今回は、平和に対する意識を啓発するカルチャーイベントを開催していただき、若者たちの平和の心を育て、異文化理解の促進にご協力をしていただくことに心より感謝申し上げます。

本大会をきっかけに、国際的な若者の平和ネットワークが継続的に稼働することを心から望んでいます。

カルチャーイベント「インスピレーションの夕べ」



感動した若者たちと出演者が記念撮影



若者への熱い期待を語る西園寺裕夫理事長

熱心に見入る若者たち

司会のモニーク・コールマンさん

ユースフォーラム3日目の夕刻、大会プログラムの一部として「インスピレーションの夕べ」と題したカルチャーイベントを主催しました。

国連ユースチャンピオン（若者版親善大使のような役割）であり、アメリカの有名な女優であるモニーク・コールマンさんの司会進行で始まり、ユネスコ事務局長補佐のピラール・アルバレス・ランさんは事務総長の代理で、ご挨拶と財団の貢献に感謝の言葉を述べられました。

西園寺理事長は、財団を代表して挨拶に立ち、大震災後の日本での若者の積極的な働きを紹介するとともに、世界中で変革を推進する若者の活躍にエールを送りました。

カルチャーイベントのプログラムは、社会起業のノウハウに関する大学教授の基調講演、3人の若手社会起業家の活動紹介、財団とユネスコが共同で推進するユース関連プロジェクトの紹介、宇宙飛行士の視点でかけがえのない地球を体感できるマルチメディアショー“BELLA GAIA”の上映でした。

社会起業（家）とは……社会の最も切迫した問題を解決するため、革新的な解決策を見出した人々である。彼らは、意欲的で粘り強く、大きな課題に取り組み、広範な変化をもたらす新しいアイデアを世の中に示している。（アショカ財団ホームページより）

ギュンター・ファルティン教授の基調講演



略歴：ベルリン自由大学教授（起業家精神研究）ドイツ最大の紅茶通信販売会社テーカンパニエを起業。ベルリン自由大学にて起業精神を説き、学生の起業を奨励。起業家精神に関する多くの論文を発表している。社会起業研究所と社会起業のためのファルティン財団を有し、20 ヶ国で教える。簡素化を旨とする革新的な社会起業を奨励。

講演タイトル「社会起業のパワー」

若者の社会起業に関する、非常にわかりやすく実際のアドバイスのプレゼンテーションをされました。

講演のポイント

●コンポーネント経営

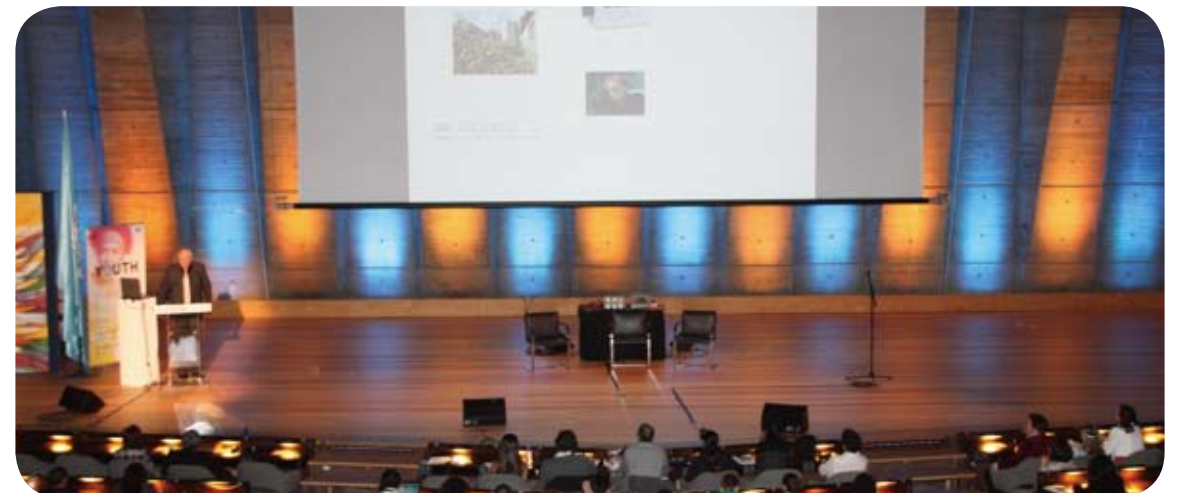
法務、経理などの機能を外部委託することで、身軽で各自の社会起業の特色に専念した経営ができる。

●文化的特色を意識した経営

地域の顧客の価値観、ライフ・スタイルに逆らうような経営では、経営がうまくいかなるので、地域の特色に合うような経営方針を心がけることは重要。

●自営・雇用の創出

雇用がない時代の中、自分たちで仕事を創り出し、雇用を創り出していくことは、社会起業のひとつの大きな役割。社会を変えながら雇用を生み出しましょう。



メロディ・フサイニさんの活動紹介



若者の起業をワークショップやメンターなどの形でサポートする団体を主宰、受賞多数

略歴：インスパイア・エンゲージ・インターナショナル創設者／代表 百ヶ国以上で、数百万人の若者に能力開発トレーニングと個別コーチングで影響を与えてきた。受賞多数のビジネスウーマン。

講演タイトル「私の社会起業」

彼女が主催する団体インスパイア・エンゲージ・インターナショナル（IEI）は、優れた社会変革のアイデアを持つ若者で、どうそれを実行したらいいかわからない人々に対し、具体的で革新的な能力開発トレーニングと個別的で実践的なアドバイスのサポートをしています。

講演のポイント

- IEI と成功の秘訣：一方的な授業だけでなく、メンターが個別に生徒と一緒に社会起業プログラムを開発。
- 「多数の人がつながって×それぞれ小さな変化を起こすとき＝大きな変化」
- お金の心配は大きなものではありません。うまくいかないんじゃないかという「恐れ」が人の動きを止める大きな問題なんです。大いなる目的のために、恐れを乗り越えてください。
- 成功の3要素は、明確なビジョン、情熱、実現計画。



ラビー・ズレイカットさんの活動紹介



体験観光という新しい社会起業モデルで成功。

略歴：2007年にジクラ・イニシアティブを開始。体験観光をヨルダンに導入し、被差別地域の生活向上、社会の平等意識の向上、社会経済格差の是正に大きく貢献。「アラビア社会の次世代リーダー 30 人の 1 人」と、アショカ財団のフェローに選ばれる。

講演タイトル「みんなが待っている心の豊かさへの気づき」

ラビーさんは自らの人生体験に重ねて社会起業に至った経緯と自らの社会起業モデル（体験観光）についてお話をしました。

講演のポイント

- **気づき**—アマンという貧しい地域の豊かさへの気づき（伝統の生活技術、自然との共生、リサイクルシステムなど）
- **応用**—都市生活者にとって、伝統技術や農業体験は新鮮で魅力的なものと気づき、それをテーマにした観光体験を提案。
- **人々を結びつけること、コミュニケーションと学びの大切さ**（例、都市生活者と自然が豊かな地域の人々がコミュニケーションを通して互いに学び合う）ラビーさん自身が交流を通して多くのことを学びました。
- **一人ひとりが自分の宝（才能・能力・資質・人との違い）にいかに関心があるかが大切。**
- 変化や改善の押しつけは良くないので、あくまで**変化の機会を提供し**、自由選択してもらうというスタイルのサービスを守っています。



ニブン・メタさんの活動紹介



略歴：奉仕団体サービススペース創始者。数百万人におよぶ巨大ボランティアネットワークに成長。25歳にしてソフトウェア開発者としての成功のキャリアを捨て、「フルタイム」のボランティアを宣言。ギフトエコノミー（贈与経済）を推進。

講演タイトル「ギフティビズム」

ニブンさんは、自らの団体のポリシーである gif-tiv-ism（ギフト主義）という新しい造語を基本に、わかりやすくご自分の団体の説明と成功（4つの基本ポリシー）の秘訣を語られました。

講演のポイント

- **ギフティビズムとは、世界を変えるラジカルなまでの気前のいい行為の実践の事です。**（造語）ガンジーなど先人が実践してきた無条件に与える行為で、これが私たちの根幹テーマです。徹底的に与え続けると感謝が返ってきます。
- **ギフトエコノミーの目的は、いかに人々がジェネラス（心が寛い人）になるか、どんどんあげたくなるか、セルフレス（無私）になれるようにデザインすることです。**（⇒資本主義経済の目的は、利益の最大化）

私達の成功の2つのキー

1. **換金できないもので大切なもの、それを提供する仕組み作り。**例えば親切は換金できません。
2. **小さな行為にこだわって行う。**誰にでもできる小さな行為だからこそ、多くのサービスが生まれ、エコシステム（生態系）に育ちました。

ギフトエコノミー 4つの心のシフト

1. **消費から貢献へ** 得よう得ようとするのではなく、与えようとする。
2. **取引から信頼へ** ギブ&テイクではなく、受けた恩を次の人に渡していく
3. **孤立からコミュニティへ** 地域の人と集まって食事。これから始まる人と人のつながり。
4. **有限性から無限性へ** 奉仕の心、信頼関係、心の静けさに無限性の源があります。（⇒有限性からくる物質の奪いあい）



五井平和財団・ユネスコ共催事業の紹介

国際ユース作文コンテスト受賞者の体験談

過去の作文コンテスト最優秀賞の受賞者から、コンテスト受賞後の彼女たちの人生がどう変わったか語ってもらいました。



アンジェリナ・ユディナさん
（11歳 ロシア）

2010年度 子どもの部 最優秀賞

コンテスト受賞後、私は何度かマスメディアに取り上げられたり、若者の組織での講演を頼まれました。私はどこに呼ばれても、地球環境の保護と助けを必要とする人々のために、援助を訴える用意があります。私はコンテスト受賞後、世界を良くする活動やプロジェクトに関わり続けています。（We Are the Worldの熱唱は、拍手喝采でした。）



アリーン・カバテンデさん
（23歳 ルワンダ）

2010年度 若者の部 最優秀賞

受賞後、私はペンシルベニア大学の国際スピーカーの一員になり、高校生メンター（相談役）もして、新聞や雑誌に持続可能性に関する記事や女性関係の記事を書いています。またルワンダのテレコムネットワーク計画に貢献し、非都市部の人々の生活向上に役立とうとしています。若者のみなさん一緒にやりましょう。理想を現実にしていくのは私達です。



ルシアナ・グロスさん
（23歳 ルーマニア）

2006年度 子どもの部 最優秀賞

コンテスト受賞後、私は作詩、作文、新聞記事、小説などを書き続けています。コンテスト受賞は私に自信を与えてくれました。「自分は大人に立派な提案ができる」そんな自信が持てたことは大きな収穫でした。

若者の起業を支援するユネスコとの
新共催事業計画について

財団がユネスコおよびベルリン自由大学と共同で、2012年度から始める予定である「持続可能な世界を築くための若者主導のプロジェクト」を応援し、人材を育成する趣旨の新規共催事業計画について紹介しました。

当財団ヨーロッパ事務所代表のパトリック・ブティエ



マルチメディアショー “BELLA GAIA”



ケンジ・ウィリアムスさん

略歴：クリエイティブ・ディレクター、作曲家、バイオリニスト、アメリカと日本を拠点に世界的に活動するアーティスト。7歳よりバイオリン演奏者としてのトレーニングを積み、コンテストで受賞多数。アルバム制作、音楽ビデオほか映像作家としての才能も発揮し数々の映画賞を受賞。現在はNASAの協力を得て、音楽と地球映像を融合した「BELLA GAIA」をスミソニアン博物館、COP15、上海万博など世界各地で公演している。

最後は、美しい地球映像とヴァイオリン演奏を融合したケンジ・ウィリアムスさんの「ベラガイア」のパフォーマンスが会場を魅了しました。宇宙飛行士が地球を見た時の感動を疑似体験しつつ、海洋汚染、森林破壊など今の地球の姿を五感で感じることができるマルチメディアショーです。

後半は五大大陸を代表する若者がステージに加わり、人類一人一人が地球進化の担い手として共通の責任と使命を果たしていくことを謳った『生命憲章』を朗読し共感を呼びました。

地球は進化する一つの生命体であり、地球上のあらゆる生きとし生けるものは、それぞれがみな、地球生命体を構成する大切な一員であると考えられる。従って、私達人類は、お互いに地球生命共同体の一員としての自覚を持ち、地球の未来に対して、共通の使命と責任を果たしてゆかねばならない。
—『生命憲章』より—



カルチャーイベントの感想

● 出演者からの感想



信じられないほど素晴らしいプログラムでした。ユネスコが五井平和財団をパートナーに選んだことを本当に誇りに思います。みなさんの発表も素晴らしかったし、ベラガイアも迫力がありました。本当に世界を変える力を持っていると思います。言葉を超える芸術的表現です。素晴らしく美しい晩でした。

今大会の後、参加した若者はパイオニアとして、必ずそれぞれの地域で、そして、世界のリーダーとして活躍してくれると思います。彼らは社会起業家であり、チェンジメーカー（変化を起こす人たち）です。

司会 モニーク・コールマン

イベントはインスピレーション（創造的な刺激）に溢れていました。アイデアの交換は素晴らしかったし、きっとみんなで何か新しいプロジェクトが始められると思います。みんなでやれば大きな成果が出せるので。今日は本当に素晴らしい学びが出来ました。未来への出発点です。

参加した若者には、今夜の素晴らしいイベントで高めたモチベーションで、革新的なアイデアを持って実行に移して欲しいと思います。

ラビー・ズレイカット



今夜は素晴らしい体験でした。若い社会起業家の体験談が聞けて良かったです。社会を変えたり、若者に社会起業のコツを教えたり、本当にすごいなと思いました。

私の若者へのメッセージは、「創造的な社会起業」です。経済・社会をビジネス界に任せてはけません。気候変動や格差拡大など、問題が溢れています。解決には創造的なアイデアが必要です。パッチあてではなく、新しい真の解決法が必要なのです。その答えが社会起業です。社会起業は世界を良くするパワフルなツールなのです。

ギンター・ファルティン教授

今日は五井平和財団の招待を受け、世界中の若者の代表の前で、地球環境を守るためにベラガイアを上演できてたいへんうれしく思います。演奏の最後に5人の若者と『生命憲章』の朗読とコラボレーションしたのも素晴らしく、ぜひこれをやり続けたいです。みんなが読みあげたメッセージはベラガイアのメッセージそのものでした。

これからも世界中を回って世界中の文化や環境を反映しながら、コンテンツを膨らませて、世界中の人々にメッセージを伝えていきたいです。

ケンジ・ウィリアムス



●参加者の感想

マリアム・アル・ハマール（バーレーン代表）

今回のユネスコ・ユースフォーラムの中でも、五井平和財団のカルチャーイベントは、最高でした。

ディミトリー・ピレフ（ロシア代表）

メロディさんはとても情熱的で、お話を聞いたことは、たいへんな喜びでした。それも非常に実践的なアドバイスで、多くの若者を育てているのも納得です。

カタリナ・タウエファシ（ニウエ代表）

今大会の中で一番のプログラムでした。若者たちのプレゼンテーションが最高。とても具体的でそれが重要でした。

オスマン・カネラス（ホンジュラス）

特にラビーさんの社会起業家としての体験談には心を打たれました。貧困、環境の問題解決に向けて、人の尊厳を尊重した活動の紹介がすばらしかったです。

デディ・フレデリック（グレナダ）

今夜のイベントは、非常にクリエイティブだったと思います。日本の「和」の文化に触れることが出来たような気がします。



オルガ・ベリグルスカ（スロバニア）

カルチャーイベントはまさにユネスコ・ユースフォーラムの一番のハイライトだったと思います。

アシェ・タハール・スゴンディ（チャド代表）

今まで知らなかった各国の社会起業を知る機会に恵まれ、素晴らしい体験を得られた。小さな案に見えても、偉大なる豊かさを持っている。考えから行動に移すことが大事。実践あるのみ！

匿名希望（ポーランド）

ニブンさんの「ギフト経済」にはとても刺激され、ひらめきを受けました。社会起業家から直接話を聞いたことは、読むことから比べてもケタ違いの感銘を受けました。

匿名希望（ブラジル）

カルチャーイベントは、芸術、科学、社会の統合でした。とても感銘を受け、気持ちが上向きになりました。最高でした。

エルネスト・シャカズル（マラウイ）

言葉では表現できない感動でした。ベラガイアは自分が宇宙飛行士になって外から見ているような感じがして、地球を肌で感じました。汚くしてしまった地球を元の美しい姿に戻したい、そしてそれは可能だと思います。

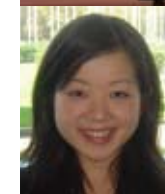
※敬称略

閉会式



ユースフォーラム最終日、各国代表の若者たちは長時間に及ぶ討議の末、最終提言書の採択にこぎつけ、イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長（写真左）とデイビッド・ヘップバーン第35回ユネスコ総会議長（写真右）に手渡しました。

そこで、グランド・フィナーレの進行を担当する五井平和財団が紹介され、プログラムはフラッグセレモニーへと移りました。各国の若者がステージに招き上げられ、それぞれ仲間の国の国旗を手にし、声を合わせて「May Peace Prevail on Earth」と平和のメッセージをくり返すという自然展開となり、皆で国境を越えた地球人としての一体感を味わいました。



2003年度国際ユース作文コンテストにて優秀賞を受賞した今井絢さんが日本代表として大活躍。210人の代表の中からアジア代表として最終提言書の草案をまとめる5人の選考委員に選ばれました。豊富で国際的な社会見識と若者らしい新しいアイディアと高いコミュニケーション能力で草案作成に貢献しました。

フラッグセレモニー



財団ブース

財団のブースでは、4日間の大会期間中、若者に対し、特製ピースポールに貼り付けるための小さいプレートに各国語での「平和」を意味する言葉を書いてもらいました。

美しくカラフルに装飾されたプレートが合計でおよそ200枚近く集まり、それを最終日に特製のピースポールに貼り付けると壮観でした。

また財団の活動やピースポール・プロジェクトの紹介、展示してあったピースバルアートコンテストの作品、財団主催カルチャーイベントの説明、勧誘などを行いました。無料配布のピースステッカーとピースドールはたいへん人気でした。



財団ブースは各国語で書かれたピースメッセージの展示があったため、記念写真スポットにもなりました。

ピースポール贈呈式



若者たちが歓喜に包まれ国旗を振る中、財団の西園寺昌美会長、西園寺裕夫理事長からイリナ・ボコバ事務局長にピースポールが贈呈されました。この特製7面体のピースポールには6つの国連公用語の平和メッセージに加え、フォーラム会期中に各国の若者が母国語で「平和」と記したカラフルで創造的なピースプレートが貼付されています。ボコバ事務局長は喜んで、自らもプレートに母国語のブルガリア語で平和と書き、はめ込まれました。完成したピースポールは、ユネスコ本部の敷地内に常設される予定です。



このように今回、五井平和財団がユネスコ・ユースフォーラムの成功に貢献できたことは、すべての皆様のあたたかいご支援の賜物であり、ユネスコとのこれまでのパートナーシップにおいても画期的なことでした。私達は今後も若者への支援やESD（持続発展教育）の成功、平和の文化の推進に向けてユネスコとの協力を深めて参りたいと思います。



五井平和財団の教育事業一覧

五井平和財団が推進する平和教育や ESD（持続発展教育）、異文化理解教育など、青少年の健全育成に資するに教育プログラムについてご紹介します。これらはユネスコが推進する理念や方向性ともピッタリと重なり合っています。



■ 国際ユース作文コンテスト

毎年、ユネスコ本部との共催事業として、平和、生命、調和、多様性、共生、持続可能性などのキーワードに関連するテーマで作品を募集しています。

2011 年度までに 170 を超える国・地域から延べ 5 万人近い子どもと若者が参加しました。

過去の受賞者一覧や上位入賞作品は、財団ウェブサイトでご覧いただけます。

■ 地球っ子広場

放課後や週末などに、ボランティアが中心となり、地域の子どもたちや大人が自由に集い、心と生命を育む「地球っ子広場」が全国各地、そしてイスラエル、インド等で展開されています。

2010 年には、ユネスコ本部より「ESD の 10 年公式活動」に正式に認定されました。

また、2011 年の東日本大震災後は「地球っ子キャラバン」を通じた復興支援活動も行っています。



■ 駐日外交官による交流プロジェクト

児童生徒たちの異文化理解を深め、世界平和への意識を高めるため、102 カ国の駐日各国大使館の協力を得て、全国小中高校で実施しています。外交官がゲストティーチャーとして学校や地域を訪問して行う交流授業のお手伝いをしています。

2011 年度までに 19 都道府県で 70 回以上実施しています。

■ 群馬県立女子大学連携講座

五井平和財団と群馬県立女子大学が共催で実施している連携講座で、県民公開授業として広く一般の方々にも門戸が開かれています。

2011 年度までに、43 カ国の駐日各国大使や公使のほか、国際社会の第一線で活躍中の日本人らが講師を務めています。



(提供：群馬県立女子大学)

財団とユネスコとのパートナーシップ

1999 年 3 月に設立された五井平和財団は、「世界平和は人類一人ひとりの手によってこそ成し遂げられていくものである」（西園寺昌美会長）との信念のもと、「平和の創造」をその使命として掲げ、ユネスコの理念と方向性を同じくする活動を、国内外で展開しています。



2006 年 10 月に、ユネスコ本部より、日本の財団では初めての「ユネスコとの公式関係を有する財団」としての認定を受けて以来、ユースに関わる分野でユネスコとの協力関係を一層深めながら、本誌で特集しているユネスコ・ユースフォーラムへの参加・協力に至っています。

2000 年 9 月には、国連の定めた「平和の文化国際年」を記念して、都内で「『平和の文化』創造のための 2000 年祭」を開催し、21 世紀における人類のあるべき姿を『生命憲章』として発表しました。国連事務総長からいただいたお祝いメッセージの中では、平和の文化を推進する財団に対するエールが送られました。

この「平和の文化国際年」から毎年実施している国際ユース作文コンテストは、2007 年度以降、ユネスコ本部より新たに選考委員に迎え、共催事業として定着し、大きな発展を遂げています。

2004 年 4 月には、「いちかわ平和の祭典〜地球規模で考え、地域から行動を〜」を市川市ユネスコ協会などと共催しました。

2005 年 7 月には、国連大学ウ・タント国際会議場にて、ユネスコが推進する「国連持続発展教



育（ESD）の 10 年（2005～2014 年）」を記念する「未来をつくる教育を考えるシンポジウム」を開催しました。

同じく 2005 年に始まった「地球っ子広場」では、平和で持続可能な社会に向けた ESD 活動を実践してきました。2010 年 12 月、「地球っ子広場」は、それまでの地道な活動実績が認められ、「ESD の 10 年の公式活動」に認定され、現在に至っています。

2006 年 11 月、都内で、財団法人 ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）と、独立行政法人国際交流基金の協力を得ながら、世界 28 カ国の若者たちを集め、財団年次フォーラムの一環としてユースフォーラムを行いました。

2007 年に韓国で行われた第 1 回ユネスコ・アジア・ユースフォーラムを協賛し、参加者を派遣しました。

2008 年 2 月には、都内で、ACCU の委託を受け、日本およびアジア各国の初等・中等教育の現職教員や教育関係者を集めて、「平和の文化創造に向けた日本とアジアの教員交流プログラム」を実施しました。

以下、このように多岐多様の分野での、当財団とユネスコとのコラボレーション（協力・連携）の実績を振り返ります。

* 組織名、肩書などは当時のものです。

ユネスコ事務局長としての 10 年間の任期中、五井平和財団がユネスコの理念と合致する活動を国内外で幅広く展開してこられたことを高く評価し、ユネスコとして五井平和財団と日本の財団としては初めての公式関係を結ぶことになりました。五井平和財団には、今回のユネスコ・ユースフォーラムにもご協力いただき嬉しく思います。

ユネスコは国家間の機構ですが、五井平和財団が民間団体としてユネスコとの提携を強め、引き続き若い人たちを巻き込んだ素晴らしい活動を進めていただきたいと願っています。

前ユネスコ事務局長
松浦晃一郎氏



ユネスコと共催の国際ユース作文コンテスト

五井平和財団では、毎年、平和教育事業の一環として、ユネスコ本部との共催で国際ユース作文コンテストを実施し、平和で持続可能な未来につながるテーマで作品を募集しています。

応募者は世界中に分布しており、例年、小学生から25歳までの幅広い年齢層から作品が寄せられています。学校や団体単位での応募も、年々増加傾向にあります。



2011年度文部科学大臣賞授賞式より

国際ユース作文コンテストの変遷

実施年度	募集テーマ	参加国・地域数	応募数
2000年度	平和	31	423
2001年度	生命の尊厳	63	981
2002年度	調和	66	2,437
2003年度	未来の地球 未来の自分	109	5,251
2004年度	自分の長所をいかす	111	4,012
2005年度	みんなの地球をまもる	104	3,661
2006年度	寛容と多様性	135	4,029
2007年度	情報通信技術の役割	138	4,029
2008年度	より良い社会をつくるための私のプロジェクト	137	4,711
2009年度	より良い世界を築くために科学が果たす役割	134	4,506
2010年度	平和な世界をつくるために私たちができること	145	7,216
2011年度	私を変えた体験	140	6,931

ESD 実践の場、地球っ子広場

2005年度以来、全国の地球っ子広場で、持続発展教育（ESD）を実践してきました。

2007年度と2008年度には、文部科学省より放課後活動支援モデル事業の委託を受け、それぞれ「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」「子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育（ESD）を推進する活動モデルづくり」というテーマで取り組みました。

地球っ子広場では、子どもも大人も「人にめいわくをかけない」「自分のことは自分です」「あまった力で、人の手助けをしよう」という「3つのお約束」を大切にしながら過ごしています。

2010年12月、ユネスコ本部より「ESDの10年の公式活動」に認定され、現在に至っています。



「ESDの10年公式活動」認定書

◀ みんなで平和をつくろう

3.11以降、物資が豊富でも持続可能にも平和にもならないことを体験しました。ライフラインが止まっても、皆ひとつの家族のようになり、分かち合う生活の中、感謝と思いやりの心が生まれ、お互いに幸せを感じたのです。

分かち合うことで平和な世界になることを地球から学びました。以来、地球っ子たちは「地球さんありがとうございます」と感謝することを実行しています。感謝の実行こそ何にも勝るESD。みんな日に日に優しくなっています。



奥州教室コーディネーター
細川 公子さん

五井教室は、心と生命をテーマにしてきました。心の交流は、目に見えない触れることのない世界ですが、スタッフ一同「みんなの生命が大好き」と心ひとつにしてきました。

また、ご父兄も交えて「自分の得意なところ」「家族や友達の好きなところ」など共に認め合い、言葉で表現する機会を繰り返し設けています。今では、自分の長所を生かし表現するまでに成長しました。

共に認め合うことが、心の喜びとなり、生命の輝きとなっています。



五井教室コーディネーター
照井 一子さん

ESD（持続発展教育）シンポジウム



国連大学ビル

2005年7月、東京のUNハウス（国連大学ビル）ウ・タント国際会議場において、「持続発展教育（ESD）の10年」を記念して「未来をつくる教育を考えるシンポジウム」が行われ、教育関係者、学生を含む約300人が集いました。（助成：子どもゆめ基金）

野村彰男・国際連合広報センター所長、西園寺裕夫理事長、阿部治・立教大学教授（持続発展教育（ESD）の10年推進会議代表理事）の挨拶に続き、映画『地球交響曲第5番』ダイジェスト版の上映会、同映画の龍村仁監督による基調講演が行われました。



シンポジウムの様子

その後、「ESD実践ワークショップ」と題し、小貫仁・埼玉県立芸術総合高等学校教諭（開発教育協会理事）、塩川哲郎・NPO法人地球環境フォーラム鹿児島事務局長、山下亮・船橋市立八木が谷小学校教諭より、それぞれ開発教育、リサイクル活動、学校教育の立場から、「子どもたちの未来をつくるESD」の先進的な事例が紹介されました。

*組織名、肩書はすべて当時のもの。

五井平和財団ユースフォーラム ～ ビジョンから行動へ

2006年11月、日本を含む世界28カ国の若者たち総勢80名が東京に集まって、五井平和財団ユースフォーラムが行われ、3日間寝食を共にしながら「新しい文明」に向けた行動について話し合いました。（財団法人 ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）によるユネスコ青年交流信託基金事業の委託と、独立行政法人国際交流基金の市民青年交流事業の助成を受けて開催）

若者たちは、対話を重ねながら自分たち自身が描き出した未来の青写真を、「共同宣言」



世界の若者たちによる「共同宣言」の発表



として、メインフォーラムの場で発表しました。「共同宣言」の中で、若者たちは「新しい文明」に自分たちが築いていく地球村のビジョンを掲げ、「新しい文明」を生きる普遍的な人間について考えたことを基に、「一人ひとりが行動し、世界を変えよう」と呼びかけました。

このフォーラムより、これらの行動計画を実行に移していくため、参加者たちによる「世界の若者による平和へのネットワーク」が発足しました。

*組織名は当時のもの。

◀ 鎌倉研修などを通じて交流を深める

ユネスコ・アジア・ユースフォーラム

五井平和財団は、毎年、韓国国内で行われているユネスコ・アジア・ユースフォーラム（ユネスコ本部および韓国ユネスコ国内委員会主催）に協力しています。これは、アジア各国を代表する若者たちが集い、アジア地域特有の問題への議論を深め、地域内のネットワークを充実させてゆく趣旨で行われている国際会議です。また、この場で議論され、取りまとめられるアクションプラン（実行計画）は、アジア地域の若者たちの声として、ユネスコ本部にて隔年で開催されているユネスコ・ユースフォーラムにも届けられています。

2007年6月の第1回フォーラムにはオブザーバーを派遣すると共に、開発途上国の若者8人の参加を支援しました。第2回以降もオブザーバー派遣や若者参加者の推薦など、積極的に関わっています。



アジア地域 23 カ国から約 50 名が参加（第2回フォーラム）

これまでのテーマ

第1回（2007年）	平和構築のための文化・宗教間対話
第2回（2008年）	アジアにおける持続可能なコミュニティづくり
第3回（2009年）	未来を再形成する：アジアの代案を求めて
第4回（2010年）	アジアのコミュニティづくりのための若者たちの創造性とビジョン
第5回（2011年）	アジアの若者たちの挑戦：アイデンティティ、声、変化、そして未来へ

平和の文化創造に向けた日本とアジアの教員交流プログラム

2008年2月、東京で、日本とアジア各国の小中学校の教員らが集うプログラムを五井平和財団／財団法人 ユネスコアジア文化センター（ACCU）主催で実施しました。海外7カ国からの参加者を含む30数名は、1週間の合宿を通して、「子どもを輝かす教育」について共に考え、各国で実践されている先進的な事例について学び合いました。

また、関西研修旅行の際には、西宮ユネスコ協会の辰馬章夫会長（辰馬本家酒造株式会社）にご協力いただき、伝統的な日本酒づくりの工程を見学しました。

参加者の中には、帰国後、自分の所属する学校で地球っ子広場を始めた教員もいます。



地球っ子広場・タカラヅカの子どもたちと交流

※組織名は当時のもの。



イスラエル・キリヤットオノ市
英語教師／地球っ子広場コーディネーター
ドナ・モリス先生

私が勤務する小学校で、イスラエル文部省から毎週平日の朝、1時間の枠をもらい、地球っ子広場を運営しています。1～6年生までの子どもたち約25人が、快適で、誰もが温かく迎ええられる広場で、和気あいあいと過ごし、心を輝かせながら成長しています。

教室では、「他者への尊重、人への手助け、地域への貢献、学校内の平和、世界とのつながり」などについて学びます。

地球っ子たちは、音楽、絵、スピーチなど、それぞれの個性を発揮しながらグループの役に立つ機会を与えられています。また、月に1度、広場で体験したことを全校児童の前で発表したり、みんなで一緒に活動の場でリーダーシップを発揮します。

ユネスコスクールへの支援

ユネスコスクールとは、ユネスコ活動に熱心に取り組んでいる学校を、ユネスコ本部が認定する制度で、世界180カ国に約9,000校あります。その内、国内では、2011年6月現在、308校の小中高校や大学が加盟しています。

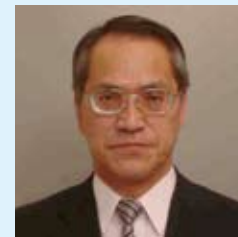
当財団では、千葉県立高校2校（市川昂高等学校、佐倉南高等学校）の「開かれた学校づくり委員会」への参画を通じて、両校のユネスコスクール加盟や活動を側面的にサポートしてきました。

その他の学校に対しても、同制度の紹介や加盟申請手続きの助言などを行っています。

本校のユネスコスクールの取り組み

平成23年4月統合し、新生「千葉県立市川昂高校」が本県公立高校初のユネスコスクールとしてスタートしました。「生命・感謝・審美」を教育理念として、異文化理解・環境・人権を主なテーマとして教育活動を展開しています。

外交官による「高校講座」、中国高校生との交流、姉妹校の韓国・忠南高校生のホームステイ、清掃ボランティア、防災学習研究成果発表などユネスコスクールらしい行事を通して、生徒達はより広い視野で成長するとともに、中学生、地元の方の期待の高まりで自信と誇りを持ち始めています。



千葉県立市川昂高等学校 校長 齊藤孝先生

持続発展教育（ESD）に取り組んで

持続可能な社会の担い手を育てることが求められている現在、ユネスコスクールの教育理念がその基盤をなすものと深く信じ、加盟いたしました。その理念を語り続ける事により、意識変化が起こり、学校生活全般を自己の可能性に挑戦する手段ととらえ積極的にチャレンジしていく生徒が増えました。

「意識が変われば行動が変わる」という言葉があるように、心を揺さぶり、意識を変えるきっかけを与える取組が重要です。

まさに、ユネスコスクールの教育理念は、これからの教育の原点をなすものといえます。



千葉県立佐倉南高等学校 校長 永井壽子先生

日本ユネスコ国内委員会への参画

当財団の西園寺裕夫理事長が、日本の教育・科学・文化等の各分野の代表者で構成され、文部科学省内に設置されている日本ユネスコ国内委員会の委員（青少年・男女参画領域）、また同委員会のコミュニケーション小委員会委員長として、我が国におけるユネスコ活動の基本方針づくりに参画しています。

西園寺理事長は、2009年10月にユネスコ本部で開催されたユネスコ・パートナーズ・フォーラムに出席した際、「ESD（持続発展教育）の10年」の最終年となる2014年末以降、更に10年間延長するか、ユネスコの恒久的なプログラムにすることを提案しました。また、今回のユネスコ・ユースフォーラムでも同じような方向性が打ち出され、ユネスコ総会はユネスコ事務局長に対し、この提案を国連総会の場で議題として取り上げるよう勧告しました。

なお、2014年には、ユネスコと日本政府の共催により、「愛・地球博（愛知万博）」のホスト地、名古屋市にて、ESDの10年最終年会合が開催される予定です。



日本ユネスコ国内委員会の公式サイト
<http://www.mext.go.jp/unesco/002/index.htm>

ユネスコを理解しよう！

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」
(ユネスコ憲章前文)

ユネスコの理念はまさにこの一節に凝縮されています。「国連の良心」とも呼ばれるユネスコは、教育、自然科学、人文・社会科学、文化、コミュニケーションの各分野で活動を展開し、世界平和と人類の福祉の促進を目指しています。

ここでは国連システムの中でのユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の役割や位置づけなどについて、ご紹介します。

ユネスコの役割や国連システムにおける位置づけ

ユネスコ（国連教育科学文化機関）は、国連の専門機関の一つで、United Nations Educational Scientific and Cultural Organization の頭文字をとった略称です。1946 年 11 月に創設され、本部はフランスのパリに置かれています。

組織の長である事務局長は、現在、ブルガリア出身のイリナ・ボコバ女史が務めています。（前任者は日本人の松浦晃一郎氏で現在、五井平和財団評議員を務めています）



2011 年 12 月現在の加盟国数は、195 カ国です。ユネスコでは、2015 年までの達成目標である 8 つの国連ミレニアム開発目標（MDGs）の内、特に「万人のための教育（EFA）」に力を注いでいます。

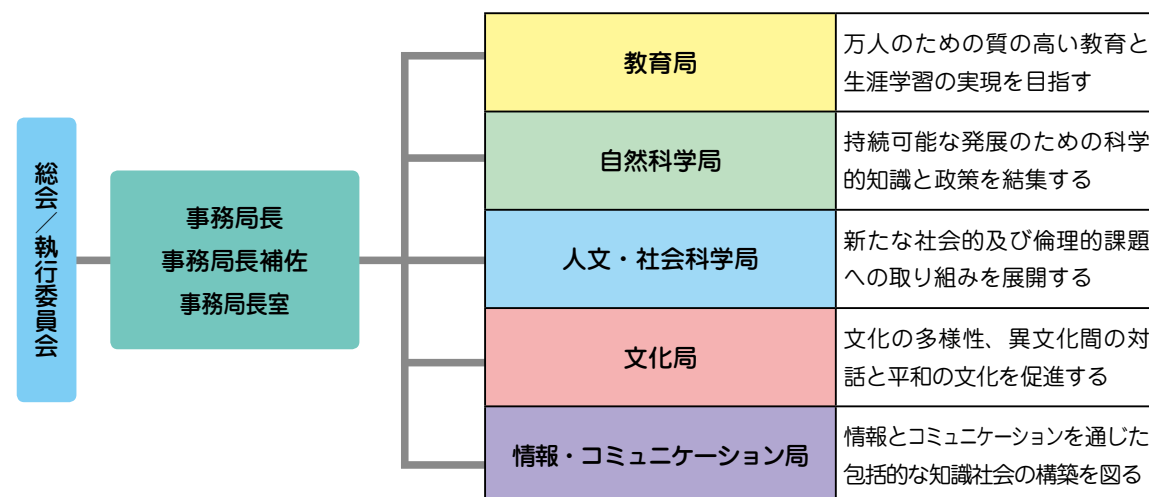
2002 年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」における日本の提案により国連総会で決議された「持続発展教育（* ESD）の 10 年（2005 ～ 2014 年）」や、ユネスコの理念を実践するユネスコスクールを、主導機関として推進しています。

私たちにも馴染みの深い「世界文化遺産」や「自然遺産」の保護のための国際的な体制づくりも、ユネスコの重要な役割となっています。

ユネスコの 5 つの事業分野（教育、自然科学、人文・社会科学、文化、情報・コミュニケーション）が表す通り、ユネスコは国際社会における、いわば「文部科学省」の役割を果たしています。

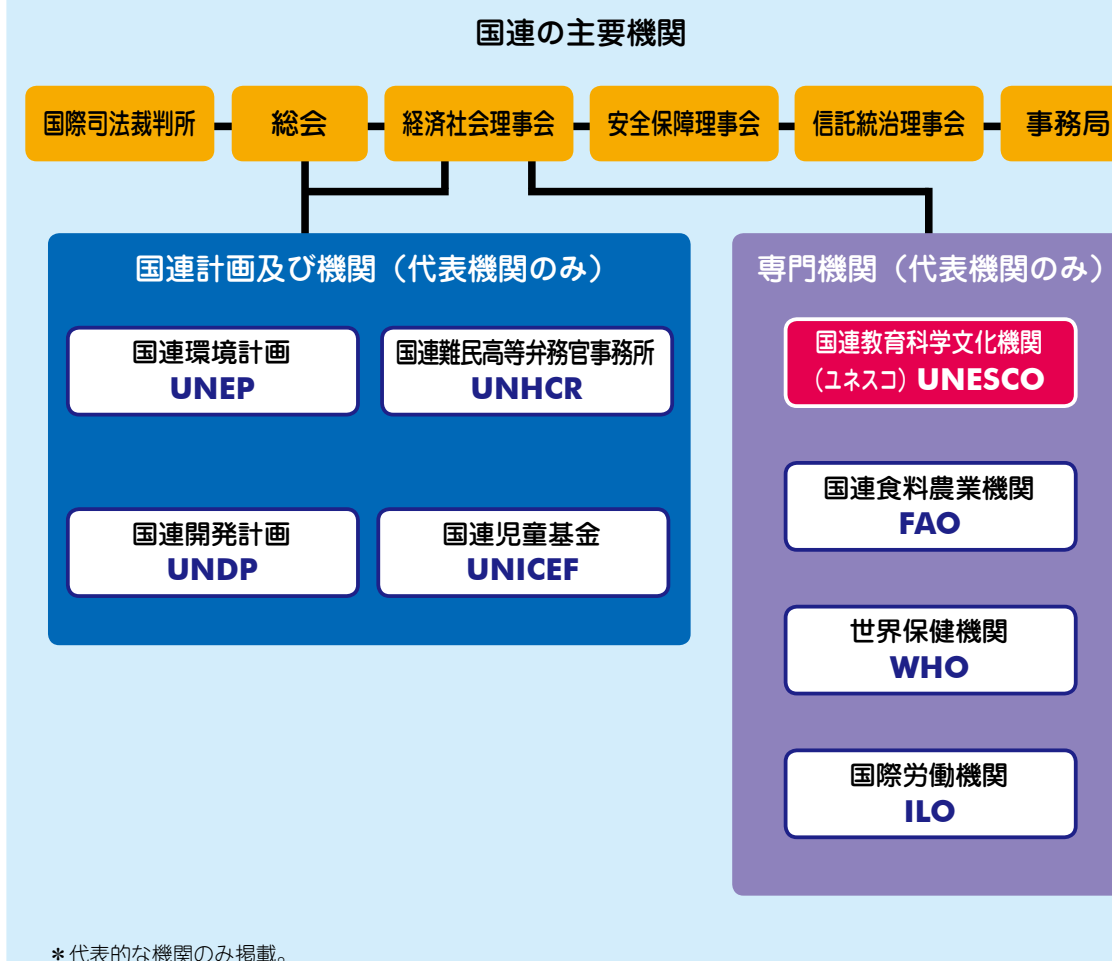
* ESD はユネスコ本部の全組織、全加盟国が協力している横断的な取り組みです。

ユネスコ本部の組織図との事業分野



* 事業担当局のみ掲載。

国連システム図



日本のユネスコ活動への取り組み

日本は、1951 年 7 月にユネスコに正式加盟し、翌年には「ユネスコ活動に関する法律」を制定し、国、地方公共団体、民間の各レベルにおいて、またあらゆるレベル同士がお互いに協力・連携を図りながら、ユネスコ活動を推進してきました。

国レベルでは、文部科学省内に日本ユネスコ国内委員会を設置し、ユネスコ活動に関する助言や企画、調査、審議、基本方針の策定、関連機関や団体などの情報交換などを行っています。米国に次ぐ第 2 位の分担金拠出国として、ユネスコを財政面から支えると共に、加盟の翌年より毎年ユネスコの管理・運営を司る執行委員会委員国を務めています。

民間レベルでは、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟（NFUAJ）や、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が中心となって、それぞれに、世界寺子屋運動や世界遺産活動、教育協力事業や人物交流事業など、さまざまなユネスコ活動を国内外で展開しています。

* ユネスコや国連システムに関する詳しい情報については、文部科学省、外務省、日本ユネスコ国内委員会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、国連広報センターなどのウェブサイトをご参照ください。

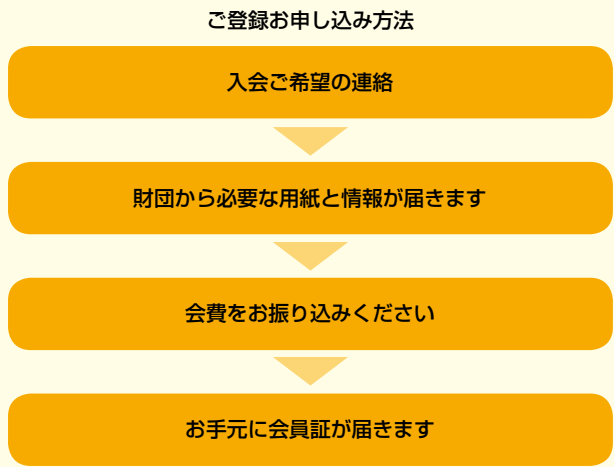
五井平和財団は、世界平和樹立に向けた使命を遂行していくために、個人法人による賛助会員制度を設けております。当財団の趣旨にご賛同いただきまして、賛助会員にご入会を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

賛助会員制度
●個人会員 ●団体会員の2種類があります。
入退会は随時ご自由です。

会費
●個人会員は1口1万円 ●団体会員は1口5万円です。
口数の上限規定はございません。

特典
「新しい未来」を築く情報を共有し、地球規模の平和活動にご参加いただけます。
◎機関誌『平和の創造』の年4回配布
◎財団主催の各種行事に関する優先的なお知らせ
◎財団主催の一部行事についての入場料金割引の適用
◎賛助会員であることが資格要件である企画・行事へのご参加

当財団は民法上の「特定公益増進法人」の認定を受けていますので、会費及び寄付金は納税の際、一部控除の特典を受けることができます。



※五井平和財団のオフィスでもお申し込みお支払いをお受けしています。

五井平和財団 役員・評議員・顧問（敬称略・五十音順）	
会長	西園寺昌美
理事長	西園寺裕夫
常務理事	川村 真紀
理事	明石 康
	磯邊 律男
	今里 隆
	大橋 光夫
	千 玄室
	俣野 華子
	村上 和雄
監 事	磯貝 恭史
	吉田 弘保

評議員	植芝 守央	合気道道主
	長内 博雄	武蔵野東教育センター所長 元武蔵野東中学校校長
	高木 秀二	医学博士・たかき小児クリニック院長 医療法人社団真誠会理事長
	竹中 統一	株式会社竹中工務店代表取締役社長
	龍村 仁	映画監督（ガイアシンフォニー）
	富田 岑子	日の丸交通株式会社取締役
	豊田章一郎	トヨタ自動車株式会社名誉会長
	中澤 英雄	東京大学教授
	日比 孝吉	スジャータ めいらくグループ代表兼CEO
	松浦晃一郎	前ユネスコ事務局長
	顧問	佐藤 禎一
		東京国立博物館名誉館長 元ユネスコ日本政府代表部特命全權大使 （元文部事務次官）
	瀬木奈那子	株式会社祐伸産業代表取締役会長 （平成24年1月現在）

『平和の創造』
ユネスコ・ユースフォーラム特集号
平成24年1月25日発行
発行人 / 川村真紀
編集人 / 望月八潮
発行所 / 公益財団法人 五井平和財団
〒102-0093
東京都千代田区平河町1-4-5
平和第一ビル
TEL 03-3265-2071
FAX 03-3239-0919
http://www.goipeace.or.jp
Email: info@goipeace.or.jp

皆様からの賛助会費と寄付金が
当財団の主たる活動の財源であり、
大きな力となっています。

払込先
○郵便振込
加入者名： 公益財団法人 五井平和財団 賛助会費口
口座番号 00190-5-556843
○銀行振込
受取人： 公益財団法人 五井平和財団 賛助会員口
みずほ銀行麹町支店
普通口座番号 1721147
○現金書留
送り先： 公益財団法人 五井平和財団
〒102-0093
東京都千代田区平河町1-4-5
平和第1ビル2階

寄付金の受付について
当財団の平和普及啓発活動へのご寄付を随時受け付けております。
詳しくは五井平和財団（TEL 03-3265-2071）までお問い合わせください。
なお、寄付金のお振込には銀行振込がご利用いただけますが、事前にご一報いただけますと幸いです。

○寄付金の銀行振込
受取人： 公益財団法人 五井平和財団
みずほ銀行麹町支店
普通口座番号 1721139

※五井平和財団のオフィスでもお申し込みお支払いをお受けしています。

●個人情報の取り扱いについて
会員の皆様よりいただいた個人情報は、次の範囲で取り扱わせていただきます。
①機関誌・お知らせ・会員証及びご案内等を郵送する。
②サービスレベルの維持向上を図るため、アンケート調査及び分析を行う。
③電話・郵便等によりお問い合わせをする。
※なお、退会・休会より1年間を限度として、上記利用目的の範囲内において個人情報を取り扱うことがあります。

生命憲章

■前文

地球は進化する一つの生命体であり、地球上のあらゆる生きとし生けるものは、それぞれがみな、地球生命体を構成する大切な一員であると考えられる。従って、私達人類は、お互いに地球生命共同体の一員としての自覚を持ち、地球の未来に対して、共通の使命と責任を果たしてゆかねばならない。
地球進化の担い手はつまるところ私達一人一人であり、平和の実現は人類一人一人の責任と義務に他ならない。
現在に至るまで、人類の多くは足ることを知らず、有限なる資源と領土をめぐる争いが、世界各地で繰り返されてきた。その結果として、地球環境に対しても多大なる悪影響をおよぼしてきた。新千年紀を迎え、世界平和実現の成否は、何よりも人類一人一人の意識の目覚めにかかっている。
今や人類すべてがみな自分自身の心の中に、平和と調和の世界を築いていくという、誰一人として免れることも怠ることも出来ない共通の使命を課せられているのである。
そして人類一人一人がこの共通の使命を認識し、お互いに強く結ばれていく時に、真の世界平和は達成されるのである。
今日まで、人類は、権力においても、富においても、名誉においても、また知識や技術や教育においても、それを持てる人、国、組織とそれを持たざる人、国、組織とに分れてきた。そしてそれを与える側と与えられる側、救う側と救われる側とに分れてきた。
「生命憲章」では、それらの二元対立や差別意識を超えて、すべての個人や様々な分野が参加し、まったく新しい理念のもとに平和な世界を築いていく方向を提起するものである。

■原則

新しい時代を迎え、人類の進むべき方向はすべてに調和した世界である。つまり、すべての個人や国々が自由に個性を発揮しながらも、お互い同士、またあらゆる生きとし生けるものとも調和し合える世界である。そのような世界を実現するための原則は；

1 生命の尊厳

すべての生命を尊重し、愛と調和を基調とした世界。

2 すべての違いの尊重

異なった人種、民族、宗教、文化、伝統、習慣を認め合い、尊重し合い、その多様性をたたえ合い、喜び合える世界。
そして、社会的にも身体的にも、精神的にも、また、あらゆる面において、差別や対立のない世界。

3 大自然への感謝と共生

人類は大自然の恩恵により生かされていることを認識し、動植物をはじめ、すべての生きとし生けるものに対し感謝の心をもって接し、大自然と調和、共生していく世界。

4 精神と物質の調和

物質偏重主義から脱却し、人類の健全なる精神性が開花した、精神文明と物質文明のほどよく調和した世界。物質の豊かさだけでなく、心の豊かさが価値を持つ世界。

■実行

個人として

従来の国家、民族、宗教が権威と責任をもつ時代から、個の時代へと変わってゆかねばならない。個の時代といっても個人が自己中心的に生きるということではなく、個が自立をし、人類の一員としての意識をもって、それぞれの責任と使命を果たしてゆく時代へと変革させていくことが必要である。
そして個としての最大の使命は、それぞれが自己の中心に愛と調和と感謝の心を築き上げていくことである。

専門分野として

教育、科学、文化、芸術、宗教、思想、政治、経済等、様々な分野がそれぞれの専門知識、技術、能力を最大限に発揮し、平和世界実現に向けて、英知の結集と、協力体制を構築していく。

若者として

20世紀においては、親が、先生が、社会が、子どもたちを教え、子どもたちは常に教えられる立場にあった。21世紀は、大人も子どもから純粋性、無邪気、明るさ、英知、直観など子どもの素晴らしさを学びとり、共に高め合う生き方が大切である。そして、未来に向けて子どもや若者が、平和創造の担い手としての積極的な役割を果たしてゆかねばならない。

**平和な世界は
私たち一人ひとりが創造していくもの
共に英知を結集して築き上げていくもの**



五井平和財団の活動

平和に関する「フォーラム・講演会」等開催
「五井平和賞」など、平和に貢献する個人・団体の顕彰
「新しい文明」の構築に向けての「調査・研究」
「友好・親善・交流」＆ネットワーク作り
国連・ユネスコ等との協働
「国際ユース作文コンテスト」
「地球っ子広場」
「駐日外交官による交流プロジェクト」等の平和教育
姉妹団体 WPPS と協力した平和活動
機関誌等、平和に関する各種メディアによる発信



五井平和財団は

内閣府により認定された特定公益増進法人です。
国連経済社会理事会（ECOSOC）からは
「特別諮問資格を有する NGO」として認定されています。
また日本では初の、「ユネスコとの公式関係を有する財団」
としての認定を受けています。



**Goi Peace
Foundation**

機関誌『平和の創造』ユネスコ・ユースフォーラム特集号
The Goi Peace Foundation
発行日：平成 24 年 1 月 25 日
（2012. 1. 25）

公益財団法人 五井平和財団

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-5 平和第1ビル
TEL：03-3265-2071 FAX：03-3239-0919

● <http://www.goipeace.or.jp> ● E-mail: info@goipeace.or.jp